

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4271600720		
法人名	社会福祉法人五島会		
事業所名	グループホーム三井楽		
所在地	長崎県五島市濱ノ畔3185		
自己評価作成日	令和 3 年 6 月 13 日	評価結果市町村受理日	令和3年8月27日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/42/
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 福祉総合評価機構
所在地	長崎県長崎市宝町5番5号HACビル内
訪問調査日	令和3年7月5日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

コロナ禍で、家族との面会も制限されている為、ホーム内で楽しく過ごして頂く為の工夫を行っている。
レクリエーションや季節に応じた壁飾りを一緒に作ったり、展示したりしている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所は、海岸沿いの自然に恵まれた環境にある。事業所の食事は、利用者の食べたいものを聞き取り、調理しており、時には新鮮な刺身が食卓に上ることもある。利用者も下ごしらえに積極的に参加したり、バイキング形式の昼食会等、暮らしの中で食事を重要視し、工夫を凝らしていることがわかる。また、排泄の自立支援にも力を入れており、おむつに頼らずできる限りトイレでの排泄ができるよう支援を行っている他、理学療法士が定期的に訪問リハビリに取り組みすることで、利用者一人ひとりのやる気と前向きな気持ちを引き出し、特筆すべき点と言える。更に、毎月の職員会議では、職員が事前に議題を考えており、全員で話し合い改善提案が多く出る仕組みは、高く評価できる。利用者がいかに楽しく、生きがいを持つ暮らしができるかに重点を置いた介護計画は理念の具現化であり、職員が利用者の支援に真摯に取り組む事業所である。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Altキー)＋(Enterキー)です。〕

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価		
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
I.理念に基づく運営						
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	法人全体で統一した理念を作成し取り組んでいる。 朝礼時に唱和し理念を念頭においたケアに努めている。	法人全体で統一した理念のもと、支援を行っている。新人職員は、オリエンテーションで理念を確認し、事業所に配属後は、OJTで理念に基づいた支援を学んでいる。職員は毎朝、理念を唱和し共有化を図るとともに、家族へ送付するお便りにも理念を記載し、家族の理解を得る姿勢も窺える。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	文化祭、秋祭り、バラモンキング、椿マラソン、酒蔵開き、鬼火、運動会等地域のイベントに参加し、地域の方々との交流を行っている。	自治会に加入しており、回覧版が回ってきている。新型コロナ禍以前には実施していた文化祭、秋祭り、鬼火焚き、運動会等への参加は、コロナ禍が収束してから復活する予定である。現在は、近所への買い物の際に挨拶を交わしたり、近隣の住民から空き状況の問い合わせがあっている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議を通して、地域住民や町内会、民生委員への認知症の理解を深めている。			
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実践、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議の中で、意見・要望提案は、できる限りサービスの向上に活かしている。	新型コロナ禍のため、書面会議が4回、実際の会議は2回となっている。書面会議では、台風の際に実際に避難した経緯や、内部研修について報告を行い、質問や意見を募っている。家族は、2、3年毎に交代しているものの、他の家族への周知が十分ではない。	運営推進会議は、外部の人々の目を通して、サービスの質の向上に繋げていく目的がある。書面会議であっても家族に内容を知らせる工夫に期待したい。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	コロナ禍の為、文書での開催が多かったが、きちんと意見を出してもらい、サービスの向上に活かしている。	運営推進会議には、支所の職員が参加しており、支援の内容について質疑応答している。今年度は、ワクチン接種について日程等について詳しい説明を得ている。書類の更新は、本部経由で市役所へ提出を行っている。新型コロナ禍により今年度は、内部研修を充実している。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	法人全体で取り組んでいて、研修会を開催し、毎月事例を上げながら対応方法を検討している。	職員全員が身体拘束等の適正化を検討する委員会のメンバーである。毎月グレーゾーンの事例を話し合っている。また、虐待防止のための研修も年に数回開催し、職員の意識付けを行っている。職員の疲労が溜まっていると判断した場合には、すぐに交代できるような体制を取っている。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	研修会を開き、虐待行為が見過ごされる事のないよう注意を払い、防止に努めている。また毎月事例をあげ対応方法を検討している。			

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護の制度や内容については研修会で理解し、本人、家族からの問い合わせについては適切に対応している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	出来る限り、本人、家族の意見を尊重し分かりやすく説明し理解と納得を得ている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者、家族からの意見や要望については可能な限り運営に反映させている。	新型コロナ禍にて家族との面会が困難になり、事業所は窓越しの面会や毎月数枚の写真と一筆を添えた便りを送るなど工夫していることが見てとれる。遠方の家族には電話にて利用者との会話を支援している。利用者の希望を基に、食堂のテーブルの高さについて車椅子がスムーズに入れるよう改善した事例がある。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	会議等には代表が参加し、職員の意見を聞き入れ置き去りにする事なく業務へ反映させている。	毎月のスタッフ会議は、事前に議題を全職員が挙げており、出席した職員からの提案等が活発に行われていることが会議録から見てとれる。また、今年度から全職員が関わって業務改善目標を立てており、3ヶ月ごとの見直し、更に改善して取り組むといったPDCAサイクルができつつある。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者は、職員の就業状況等の確認を行い、勤務状況等を考慮の上評価し昇給、賞与に反映している。 キャリアパス制度も整備され、充実した職場環境を整備している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	代表者は対話を重視し、職員の能力向上を期待しながら研修等の確保に努めている。 又、法人全体で人材育成として人を育てる、人が育つ事業所を目指している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	コロナ禍により交流する機会がなかった。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居時、家族から心身の状況や生活習慣等を把握し、本人らしく生活できるよう支援している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	サービス導入前から家族からの意見や要望を傾聴し、お互いが協力し、サービス提供が出来るよう努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人、家族との会話の中から最も必要としていることを見極めより良いサービスが出来るよう支援している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者と家族のような関係を築くように対応している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	その都度、日々の生活状況を伝え家族との絆を大切にしながら、支援の協力をお願いしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	本人の希望に添って、家族へ電話したり馴染みの場所へ出かけたりしている。	複数の利用者が携帯電話を所持しており、家族と連絡を取っている。また、新型コロナ禍以前は、教会の神父や近所だった地区の人たちの訪問もあり、利用者によっては教会に出掛けるなど、馴染みの人や場との関係は良好である。新型コロナ収束後には再開に向けて支援する予定である。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	一人ひとりが力を発揮できるよう機会を提供しお互いが協力しあえるよう支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約が終了してもこれまでの関係を維持し、入院の場合は退院後のフォローも含め対応している。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	十分に話を聞き、本人の思いを尊重しながら日常生活の中で把握するよう努めている。	事業所では、リビングや居室、入浴時などに本人が発した言葉を介護記録に記し、申し送りして情報を共有している。また、職員は、利用者の言葉にできない思いを表情や視線から感じ取り支援するよう心掛けている。新型コロナ禍で家族に会えない戸惑いを受け止め、説明すると共に寄り添うよう努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時にその人の生活歴や習慣、暮らし方等把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	本人のペースを守りながら、その把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人、家族からの意見を求め、職員全員が意見を出し合い現状にあった介護計画を作成している。	入居時2週間の暫定プランを経て、短期3ヶ月、長期6ヶ月の計画を作成している。利用者の生活の質の向上を目指している点が特長であり、生きがいに繋がる計画となっている。更に、本人と家族の満足度を記録し、次回の計画作成に反映している。理学療法士が、月に1回リハビリ計画書に沿ってリハビリを行っていることも強みである。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子を個別に記録し、職員間で情報を共有しながら話し合いの場を設け意見を出し合い見直しを図っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	柔軟な対応が出来るよう情報の共有化に努める。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	その時の状況に応じて地域資源を活用できるよう支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	定期受診時、報告し、状態の変化があれば素早く対応可能である。	利用者のかかりつけ医は市内の複数の医療機関であり、それぞれに受診支援を行っている。歯科は受診の他、往診もある。診察に行く際は、血圧の一覧表を持参しており、医師に正確な情報を伝えるよう努めている。体調が悪化した際は、本部所属の看護師へ連絡し、適切で迅速な対応ができるよう体制を整備している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	毎週の訪問看護師に気づきを報告し指示をあおんでいる。 又、状態急変時は日中、夜間関係なく支持を受けられるようにしている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時、利用者の生活歴、病歴などの情報を提供し、退院後の受け入れ態勢が出来るよう事業所との連携も支援している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時、十分説明を行っている。 又、かかりつけ医や協力病院と連携して家族へのフォローも支援している。	看取りに取り組むことは、入居時に口頭で説明し、看取りに入る際に、医師からの説明を受けて、家族が決定している。その後も家族の意思を随時確認し、病院へ入院する場合もある。看取りの際は、家族が泊まることができるよう支援し、看取り後は、ケアマネージャーや管理者が職員から話を聞き取り、精神面でのフォローを行っている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	マニュアルを作成し、応急対応や初期対応の訓練を定期的に行い実践に備えている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を日常的に防火管理及び消火、避難訓練等を実施することにより、全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。 また、火災等を未然に防ぐための対策をしている。	総合訓練を年2回、自主訓練(毎月)実施している。 災害訓練についても風水害を想定しての訓練を行っている。	毎月の自主訓練及び消防署と業者立会で夜間想定総合避難訓練を年2回実施している。内1回は近隣の住民も参加している。台風の際は、実際に系列の施設へ避難している。居室の入口のランプを点灯させ、避難済みを知らせる工夫がある。ただし、非常食や懐中電灯の備えはあるが、利用者の情報に関する整備はこれからである。	非常時に、消防や医療機関との連携をスムーズに行うために、利用者別に連絡先等の情報を整備するために検討、取り組みが望まれる。

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人一人の人格を尊重し、傷つけない言葉かけや気持ちを汲み取りその人らしい生活が出来るよう支援している。 特に居室においては、プライバシーを損ねないようにしている。	理念にある「その人らしく尊厳のある生活」に則り、利用者への呼び掛けの基本は、苗字にさん付けである。脱衣室や排泄等羞恥心に配慮したタオルを掛けて支援している。前回の気づきであったメモ帳の処分は改善している。ただし、個人ファイルの氏名表記に工夫が必要である。	個人ファイルの氏名から個人が特定できるため、表記や保存方法等、改善することが望まれる。
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人の意向や思いに出来る限り応える事が出来るよう心がけている。 又、本人が自己決定できるように支援している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	本人のペースに合わせ一日の生活リズムを整えている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	自分で着たい洋服を選んでもらったりさりげなく身だしなみを整える等、工夫しておしゃれを楽しんでもらっている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	一緒に食事を作ったり気の合った者同士後片付けをしたりしている。	特に献立を立てず、毎日利用者の希望を聞きながら、冷蔵庫の食材で料理している。利用者の希望は可能な限りその日に提供するように配慮している。また、ホットケーキや手のひら団子など、利用者と一緒におやつを作る時間を大切にしている。バイキングでは刺身の提供もあり、本人がおにぎりを握って食べるなど楽しい工夫がみえる。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	チェック表により、情報共有し、生活の中で摂取できるよう支援している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の口腔ケアを実施し、夕食後は義歯洗浄とうがいにて清潔保持に努めている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄パターンを把握することで、適切な時間に誘導し、失敗のないよう自立に向けた取り組みを行っている。	職員は利用者の排泄の自立支援に向けて、日中はトイレでの座位排泄を支援する他、オムツ着用の利用者も日中はポータブルトイレで排泄するようサポートしている。それまでオムツ等を着用していた利用者も退院後や入居後には、職員が検討しながら支援し、リハビリパンツや布パンツにパッドなど軽減した例がある。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便の有無、水分チェック表、食材の工夫運動に心がけ、自然排便が出来るよう又、センナ茶も服用してもらうよう支援している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴日、時間帯は予定しているが、本人の希望時間で入浴を支援している。 又、入浴時間、温度調節も支援している。	週3回の入浴を基本としている。体調不良や入浴拒否の場合は、清拭や衣類交換で対応し無理のない支援に努めている。車椅子の利用者はシャワー浴である。同性介助の希望は反映している他、冬場は柚子湯を提供し利用者に喜ばれている。乾燥する季節は保湿クリームを利用し、快適な入浴となるよう支援している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	状況に応じて居室での休息も支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬管理に基づき、対応している。 又、誤薬防止のため、配薬、与薬、服薬のダブルチェックにより防止に努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人ひとり出来る事を発揮してもらいアドバイスしながら一緒にやることで本人の力を引き出し、楽しく過ごせるよう支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天気を見ながら、ドライブに行ったり散歩したりしている。	事業所では、利用者と涼しい時間帯に敷地内を散歩したり、菜園の手入れを楽しんでいる。新型コロナ禍以前は、買い物ツアーと称して利用者が買い物を楽しむ機会を設けており、職員は収束後には再開しようと考えている。また、コロナ禍であっても季節の花見やクリスマスイルミネーションの見物には出掛けている。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	本人・家族の同意を得て金銭管理はホームで行っている。 自分で持ちたい利用者には、少額であるが、所持している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人の希望があれば、その都度電話できるようにしている。 又、携帯を持っている利用者もいて自由に電話している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者と一緒に季節感のある壁飾りを作り飾ってある。 又、旬の食材を利用して食事を作っている。	リビングは、花や利用者手作りのひな人形、七夕飾りで季節感があり、利用者が思い思いに寛いでいる。誕生日には、お祝いの飾り付けの前で記念撮影を行うことが恒例となっている。廊下にも職員と利用者が共同で作成した美しい季節の作品があり、明るい空間となっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビング室に椅子を置き、気の合った者同志会話を楽しんだり、テレビを視聴している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人の馴染みの物や好きな物を置いたりして居心地のよく、生活出来る環境を整えている。	入居の際は、自宅から使い慣れた家具持ち込むことができる。居室は、職員の清掃により清潔に保たれ、家族の写真等を飾り、居心地の良い空間となっている。荷物の整理が苦手な利用者には、片づけを決して強制せず、さりげなく見守っており、本人の気持ちを尊重した支援を行っている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	自立支援を基本としているので、生活の中で利用者の能力を活かし、出来ない部分を支援する事で自立した生活が送れるようにしている。		